

中学校区におけるめざす子ども像					自らを律し、自ら主体的に、生涯にわたり学び続ける子ども					堺市立 竹城台小学校 校長 氏丸 重信					
令和6年度 重点目標															
(教育目標)「豊かな心と健やかな体を育み、確かな学力をつける」 (重点課題)・総合的な学力の向上					・豊かな心と健やかな体の育成					・特別支援教育の充実					
					・危機管理体制の確立					・よりよい教育環境の整備					
確かな学びの現状										豊かな心・健やかな体の現状					
ここ最近では基礎基本に重点をおいた学校での学習内容の定着を図るための家庭学習に力を入れ、基礎的な学力の定着は少しずつであるが進んできている。しかし、思考力や表現力・応用力を身に着けるところまでには至っていない。そこで今年度も各教科の源となる国語科の確かな学力をつけること、そして指導力向上をめざし教員の研修とともに、授業では言語活動をともなった主体的・対話的な学習活動に取り組む。家庭学習においては、引き続き学校で学習した内容の定着を図りながら、タブレット端末を活用した個別最適化の学びの保障を推進する。さらに全学年において自主学習が家庭学習として根付くよう児童の実態に応じて粘り強く取り組む。また児童が取り組んだ「自学ノート」の掲示・HPへの掲載など、さまざまな形で示し、啓発することにより、自学への意欲・関心を育む。すべての学校教育活動の中で、一人一人が学ぶ喜び、充実感、達成感を感じ、児童の自己肯定感を育んでいきたい。みんなが『わかる授業』『できる授業』となるよう、授業のUD化を進め、授業改善に今年度も取り組んでいきたい。										静謐した教育環境の中、ほとんどの児童が落ち着いて学習し生活することができている。ただ遅刻等、生活のリズムが崩れている児童もいるので、今年度も引き続き早寝早起きの習慣を定着させるために家庭への協力を求めていく。また、自分に自信がもてず自己有用感の低い児童もいる。学校外では特にSNS等で友達とコミュニケーションがうまくとれず、トラブルになってしまうこともある。そのような児童には人権教育を通して『いいところみつつけ』等により誰かのために役立つ自分に気づく取り組みに重点を置き、児童の自己肯定感を高めていくとともに、相手の気持ちを考えられる思いやりや気遣いの気持ちを大切にしていきたい。体力面については特に持久力や瞬発力などの体力の低下が顕著である。生涯にわたり学び続けるためには、健やかな体が何より大切だと考え、子ども達が夢中になって取り組む体育的活動を意図的に仕掛け、児童の運動量を増やしていく。日々の体育の授業で運動の喜びを知り、主体的に運動する児童の育成をめざしたい。					
大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗状況 (11月)	達成状況(年度末)							
								自己評価			学校関係者評価				
確かな学び	基礎基本の定着	自主学習を授業内容と綿密につなげ、家庭学習の一層の定着をめざす。	●★授業での学習理解を図り、「朝の学習」や「家庭学習のしおり」を活用した家庭学習の習慣化等を通して基礎的・基本的な学習内容の確実な習得を図る。	・学校教育評価アンケートについて「学習習慣の啓発に努めている」(保護者)で肯定回答率が85%以上・授業に関する項目(児童)で肯定回答率が85%以上	アンケート等	2学期末	概ね順調に進んでいる	A	学校教育評価アンケート「学校は望ましい学習習慣の啓発に努めている」の項目で保護者の肯定回答率が90.0%、児童のアンケートでも「先生は私たちの話をよく聞いてくれる」の項目で、肯定回答率が92.4%と目標値を大きく上回った。次年度も子どもたちの考えや意見を大切に、着実に学習理解を深め、基礎・基本的な学習内容の確実な取得を図っていきたい。低学年では調べ学習等、高学年ではプレゼンテーションの資料作りや発表などを中心に行った「個別最適化・協働的な学び」については、引き続きタブレット端末を活用した学習を推進していきたい。授業での有意義な活用をより一層充実させていく。				A	先生の話を聞けるようになっている。また話しやすい関係性を保ってくれている。グループでの話し合いやタブレットを活用している状況により、学習の効果を実感し始めている。	
			●児童一人1台のパソコンを使用し、低学年では調べ学習等、高学年ではプレゼンテーションの資料作りや発表などを行う。そしてタブレット端末を活用した個別最適化の学びを推進していく。特に週3日以上、各10分以上の活用をクリアし、児童1人1台PC活用推進をより一層充実させる。	実践報告、各種総括会議等での総括結果	実践報告、全体反省会での総括	2学期末		A							
	授業改善	「子どもが考える授業」から「子どもが自ら学びを進める授業」へと変革する中、スムーズにR7「学びのコンパス」を活用した授業をスタートできるよう準備をする。	●★①個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ②探究的な学び ③児童生徒用パソコンの活用の3つの視点を盛り込んだ授業づくりに取り組む。	・学校教育評価アンケートで授業に関する項目の肯定的評価が85%以上 ・年度末の研修について総括等	・アンケート ・全体反省会等での総括	総合的評価は年度末	概ね順調に進んでいる	A	学校教育評価アンケートの授業に関する項目「先生は自分が頑張ったことを認めてくれる」では児童の肯定的評価が93.7%との目標の80%はもちろん、昨年の数値も上回った。「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい」も77.8%と昨年度の数値より高くなった。逆に「授業はわかりやすい」の項目については90.6%と昨年の数値を約2%下回っており、授業のUD化とどの子にもわかりやすい授業をめざす指導の工夫改善に再度取り組み直さないといけないことが明らかになった。1日のスケジュールの見通しや1時間の授業の流れを明示することをスタンダードとしながらも学校全体での授業改善に向けてさらなる工夫改善を行っていきたい。				A	子どもが「先生の説明がわかりやすい。」と喜んでいる。参観日等での授業を見ても、子どもたちが自主的に手を挙げ積極的に学ぶ姿が見られた。すべての子どもたちがわかる授業づくりをめざしていただき、できる喜びや達成感を味わい、自信を持てるようになってほしい。	
			●少人数指導やT.T、スクールサポーター等の活用など、きめ細かな学習指導を行い、学習理解の定着を図る。	・授業アンケート・学校教育評価アンケート等で授業に関する項目の肯定的評価が75%以上	・アンケート ・全体反省会等での総括	総合的評価は年度末		A							
			●★研究授業や公開授業を通してわかりやすい授業のための指導法(UD化)や教材等の工夫改善に取り組む。	・学校教育評価アンケートについて授業に関する項目の肯定的評価が85%以上 ・年度末の研修について総括等	・アンケート ・全体反省会等での総括	総合的評価は年度末		B							
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	「いじめ防止・早期発見」に向けた組織的な取組と、絶対にいじめを許さない集団づくりを行う。また違いを認め仲間を大切にしたい「思いやり・心遣い」のできる子どもを育てる。	●★子どもの小さな変化を見逃さず、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に努める。また自己有用感や自尊感情を育む取組や仲間づくりを通し、人権意識を培い、いじめ防止に向けて、暴言・暴力のない集団を育成する。	・「いじめのない学級づくりにとりくんでいる」の保護者、職員肯定的評価85%以上 ・児童のアンケート結果・年度末の総括等	・アンケート ・全体反省会等での総括	総合的評価は年度末	概ね順調に進んでいる	A	学校教育評価アンケート「学校はいじめのない学級づくりに取り組んでいる」の項目では保護者の肯定的評価がはじめて90.0%となり、目標の80%以上とともに昨年の数値(86.7%)も上回った。いじめの早期発見未然防止につながる意識として、これからは子どもの小さな変化を見逃さない観察力を持続していきたい。児童は「学校のきまりやよくそくを守っている」が89.3%、「元氣よくあいさつしている」が81.2%と、肯定的回答目標(80%)を上回った。また残りの20%近くの児童の否定的回答の原因を探り、より安心できる学校づくりに邁進していく。また参観授業やオープンスクールで実施してきた道徳や人権啓発の授業の公開は今後も継続し、自己有用感を育む取組や仲間づくりをさらに発展させ、人権意識を高めた安心安全な集団の育成に努める。				A	人権教育に取り組む、児童個々の道徳心を高めている。校内はもちろん、登下校時でも多くの子どもたちがあいさつしてくれる。先生方は、子どもの様子をしっかりと把握し、保護者には何か気になることがあればすぐに連絡をし、密な関係づくりに取り組んでいる。	
			●「ぐんぐんのびる 竹城っ子」を活用し、集団生活のためのルールを守る態度を身につけさせる。	・「学校のきまりを守っている」や「あいさつについてできている」と答える児童が85%以上 ・年度末の総括等	・アンケート ・全体反省会等での総括	総合的評価は年度末		A							
			●道徳の授業や体験学習を通じて、正しい人権感覚と知識をもって判断・行動できるように豊かな人権感覚を培う。さらに教科等の関連を図りながら、計画的に道徳の授業の実践に取り組む。	・参観授業・オープンスクールでの道徳授業の公開を行う。	・実践報告 ・年度末反省会等での総括	総合的評価は年度末		A							
	体力向上	健康安全について理解を深め、運動に親しむ環境を整える。また体力の向上に向けての取組を進め、安全で健康な生活を送る力を身に付けさせる。	●基礎体力作りを行うとともに、年間を通じて体育的な取り組みを通し、児童の体力向上に努める。	・学校教育評価アンケート(対象 保護者、職員)での肯定的評価が80%以上 ・年度末の総括等	アンケート 全体反省会等での総括	総合的評価は年度末	概ね順調に進んでいる	B	「学校は子どもの体力向上に努めている」の項目では保護者の肯定的評価が82.0%と目標を上回った。しかし新体力テストの結果では中学年(3,4年生)の男女とも、反復横跳びや長座体前屈等の数値が全国平均・堺市平均を下回った。今後は体育授業の一層の工夫改善に着手したい。「先生は子どものことについて相談のってくれる」の項目では保護者からは86.0%の肯定的評価を得た。次年度も心身の健康を守りながら、保健健康教育の充実にも努める。				B	昼休みなどに多くの児童が運動場で遊び、体を動かしているように見えるが、さらなる声かけをお願いしたい。また体育授業だけでなく、それ以外の取組の中で体力の向上をめざしてほしい。	
			●「早寝・早起き・朝ごはん」等の啓発や食育、睡眠教育、保健指導を充実させ、健康で健全な生活習慣の確立を促進する。	・年度末の総括等 ・「竹小の学習ルール」などでの学習習慣の啓発についてのアンケート評価で肯定的が85%以上	・アンケート ・生活状況調査等	総合的評価は年度末		A							
地域協働	信頼される学校	地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」のもと、地域・家庭との連携を密にする。保護者・地域に開かれた信頼される学校(堺版コミュニティスクール)づくりに努め、それに向けて学校情報の積極的な発信を行う。	●各種通信、校報・ホームページ、Tetoru等を通し情報発信に努めるとともに、ペーパーレス化につとめる。またオープンスクールや学校教育アンケート等の活用を図る。	・学校教育評価アンケート(対象 保護者、職員)での評価が肯定的で85%以上	アンケート等	総合的評価は年度末	概ね順調に進んでいる	A	学校教育評価保護者アンケートの「学校は教育方針をわかりやすく伝えている」が90.0%、「学校は保護者・地域の願いに応えている」においても肯定的評価が90.0%と目標の80%を上回った。また「校報・やHPを通して情報発信し、開かれた学校づくりに取り組んでいる」の項目では今年度も高い肯定的評価(94.0%)を得ることができた。また今年度は「昔あそび体験交流」(1年生)を5年ぶりに実施できた。老人会の皆様や地域の皆様のご理解・ご協力のおかげである。今後も保護者・地域のご協力をいただき、開かれた学校づくりに取り組んでいきたい。				A	学校・地域・保護者の関わりが多いのがよい。地域の人たちと無理のない心地よい関係を築いていると思う。地域の活動にも積極的に参加している。ホームページやテトルなどで学校の様子がよくわかる。	
			●地域の安全見守り隊や保護者による見守り活動と連携し、児童の登下校時の安全を確保する。また、地域・保護者に学校を開き、人的交流を推進する。	・保護者のアンケート結果で肯定的評価が85%以上 ・各種総括会議等での総括結果	各種総括会議意見等	総合的評価は年度末		A							
校長より(年度末) 令和7年度は「探求的な学びの推進、子どもが自ら学びを進める授業」への転換1年目となる。その変革期において、学校アンケートにおける目標を上回る高い肯定的評価を得たこと、そして学校が安心安全な学びの場になっていることは、ひとえに保護者の皆様・地域の皆様の多大なご理解、ご協力のおかげである。これに甘えることなく「確かな学び」「豊かな心・健やかな体」「地域協働」すべての項目でより一層工夫改善を推進し、充実した学校運営をめざしていきたい。							学校関係者評価者から(年度末) 子どもたちの表情や様子から、学校が安心・安全な場所になっているとわかる。あいさつや会話を通して、子どもたちが順調に成長しているのも感じる。これは学校内での指導が間違っていないことを意味するのではない。地域・保護者もできる範囲でこれからも学校に協力していきたいと思う。								